

監事就任ご挨拶

日本薬品工業株式会社
代表取締役社長 工藤 伸一

この度、高田新会長の下、監事の役を拝命いたしました。

新型コロナウイルス、ロシアのウクライナ侵攻、安倍元総理襲撃、世の中は物情騒然、多事多難の今日この頃です。私たちの業界においても嘗て経験したことのない規模で品質、供給問題の嵐が吹き荒れております。この度の拝命にあたり、協会の体制も大きく変化していることを澤井前会長より伺い、今回の人事についても時代の巡りあわせと自分に言い聞かせ、お引き受けいたしました。業界活動は全くの未経験で身の置き場がよくわからず、しばらくは会長、副会長はじめ理事、監事、会員会社の皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、少しでも早くお役に立てるように日々の経験を糧にしていまいりますので何卒ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

今まで日本ジェネリック製薬協会において弊社は一般会員会社という立場で、その活動を支援するポジションでした。あまり馴染みが無い企業かと思いますので、弊社、日本薬品工業株式会社について、簡単にご紹介させていただきます。

弊社は日本ケミファの完全子会社で創立62年を迎えます。茨城県筑西市、稲敷市、ベトナム(子会社のNippon Chemiphar Vietnam)の、国内外に合わせて3工場を有し、社員は約520名で主に親会社日本ケミファや他社からの受託製造が売り上げの約5割を占めます。営業は約40名のMRで、主に販社ルートでその活動を展開しております。

さて冒頭に触れましたが、一昨年12月以降の品質問題を発端に出荷調整等による供給問題が社会問題化しております。私自身、日本ケミファの営業部門の一員として国のジェネリック医薬品使用促進の始まりから携わって来た者ですが、今に至って「生産キャパ以上の売り上げは無い」ということを改めて実感しました。営業一途の経歴から現在の役職に付き、恥ずかしながら改めて生産の現状を強く意識し、工場に出入りしながら、今後のジェネリック医薬品のあるべき生産体制、サプライチェーン体制を模索しているところです。現在、起きている問題、事象は、潜在的には多元的で複雑な問題を孕んでいます。ワンプッシュボタンで解決できることは無く、複雑に絡み合った糸を根気よく手繰り寄せ紐解いていくことが求められていると思います。高田新会長の下、少しでもお役に立てるように、貧しいスキルですが、今までの経験を活かし努力して参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。